

| | |
|---|---------|
| 令和3年度 中央区立日本橋中学校 | 外部評価報告書 |
| 外部評価委員：岩田 博 高橋 道義 喜多 隆正 郷 金二郎 倉谷 通孝 (敬称略) 報告書作成者：峯川一義 | |
| 評価時期 令和4年3月 | |
| <p>1 重点目標の評価</p> <p>重点目標1「確かな学力の定着と向上」</p> <p>○「生徒が主体的に問題に取り組み…学習の工夫を図る」については、生徒と教員の「肯定・肯定的」という評価が約90%である。しかし、「肯定」評価の教員は5%、生徒は33%と大きく離れている。生徒は達成感や充実感をもって学習に取り組んでいる様子が見える。教員には生徒の意欲が学習内容の定着につながるように、一層の指導の工夫が求められる。</p> <p>○「個に応じた指導や…基礎的・基本的な学力の向上を図る」については、生徒の「肯定・肯定的」という評価が約85%であるが、教員、保護者とも生徒の評価を下回っている。先進的な実践例を多く収集し、区教委の研究奨励校の研究を通して教科の特性に応じたタブレットの活用を工夫・開発するなどが大切である。</p> <p>重点目標2「豊かな人間性の育成」</p> <p>○「…多様な価値や生命の大切さを考えさせる」については、生徒の「肯定」評価が重点目標の6つの質問の中でも最も高く唯一50%を超えている。また、教員は「肯定・肯定的」合わせて100%である。話し合いのルールが示され、「語り合い、考え、議論する」という今般の学習指導要領に則した道徳の指導に学校として力を入れている成果であろう。</p> <p>○「…集団生活のルール、社会貢献やボランティア精神…」については、様々な制約のある中で取り組んでいったと思われるが、三者の中でも生徒の「肯定」の割合が35%と教員の「肯定」10%と比べ高い数値を示している。少ない機会にもかかわらず、生徒は活動の充実感や達成感を味わったという意識をもっている。コロナ禍収束後の活動の充実を期待する。</p> <p>重点目標3「心身の健康の増進」</p> <p>○「…運動への興味・関心を高め、健康の保持・増進を図る」については、生徒の「肯定」評価(34%)に対して教員は生徒の約1/3、保護者は約1/2であった。またこの評価は保護者の「わからない」、生徒の「否定的・否定」の評価が全6項目中一番多い。教育活動の意味付けや価値付けを周知するような工夫をお願いしたい。</p> <p>○「…自らの生き方や将来を考える機会となっているか」については、教員の95%が「肯定・肯定的」と回答している。一方、保護者は「わからない」「否定的」合わせると約1/4である。重点目標3の質問項目は、教育活動の内容と成果を保護者に周知し一層の理解を得るようにしたい。</p> <p>2 今後の改善に向けた意見</p> <p>○学校評議員の方の指摘にもあったが、重点目標についての生徒の評価結果のほとんどが保護者より高い。また、半数の項目は教職員よりも高い。生徒は満足感をもって落ち着いた学校生活を過ごしている様子が見える。次年度もますますこの評価が高まるよう教育活動の充実を期待する。</p> <p>○学校評価は、教員による自己評価を基本として、保護者や生徒による評価や評議員・外部評価委員の評価等を参考にしつつ、教育活動の成果と課題を明らかにし、自校の教育の改善・充実を図るために行うものである。特に、重点目標は当該年度の最重要の目標であるので、質問項目の文言の整理や整合性、指標となる資料の設定など、十分な検討をお願いしたい。</p> <p>3 その他</p> <p>○保護者の「肯定」「肯定的」を合わせて97%が「教職員の保護者に対する言葉遣いや、対応が親切丁寧である」と答えている。また、「生徒は生き生きと学校生活を送っている」「学校は保護者にとって連絡がしやすく、適切に対応している」が約90%と高い評価をしている。保護者に信頼されている学校の姿が見える評価である。</p> <p>○一方、「地域の行事やボランティア活動に進んで取り組んでいる」は「全体の評価」の中で最も低い評価になっている。校外の活動が制限されている昨今では止むを得ないが、コロナ収束後は地域の学校として教育活動の充実をお願いしたい。</p> | |

| | |
|---|---------|
| 令和3年度 中央区立日本橋中学校 | 外部評価報告書 |
| 外部評価委員：岩田 博 高橋 道義 喜多 隆正 郷 金二郎 倉谷 通孝 | |
| 報告書作成者：株本 光子 | |
| 評価時期 令和4年3月 | |
| <p>1 重点目標の評価</p> <p>重点目標1「確かな学力の定着と向上」</p> <p>生徒の90%が「わかった」「できた」の楽しさを感じ、主体的に学び、問題解決の力が身に付いたと回答した。また、全国的なデータとも比較できる「中央区学習力サポートテスト（毎年全学年で実施）の国語、社会、数学、理科、英語の結果では、理科の一部を除き全国平均を上回っている。このことに対し、90%の教職員、80%の保護者が、「生徒が主体的に学び、問題を解決する力」を、また約80%の教職員と保護者が「基礎的・基本的な学力」を身に付けたと捉えた。重点目標に一定の成果があったと捉えたい。一方、二つのアンケートに、約10%の保護者が「わからない」と回答した。この数値の意味を保護者の立場で考え、原因を明らかにし、次年度の改善策を立てることが必要である。また個に応じた指導を重点とする本校では、学力調査の「正答率度数分布」等を基に、全ての生徒が「分かった」「できた」となるグラフの形を予測し、個に応じた指導の工夫を具体的に実践する。生徒の多くはそれを待っている。</p> <p>重点目標2「豊かな人間性の育成」</p> <p>生徒の95%は、「多様な価値や生命の大切さを考えることができた」、80%は、「集団生活のルール、社会貢献、ボランティア精神が身に付いた」と回答した。「多様な価値等」については教職員の100%が、「社会貢献等ボランティア精神が身に付いた」では、教職員の85%が生徒の身に付いたと回答した。この重点目標についても一定の成果があったと捉えられる。</p> <p>一方、生徒アンケート「先生は、いじめや不登校・問題行動等の未然防止や早期解決をしていると思うか」に18%が「あまり思わない・思わない」と評価している。豊かな人間性の基盤ともなるこの質問には、なぜそう評価したのかを分析し、組織を挙げて早急に改善に取り組む必要がある。</p> <p>人間性の育成は、ゴールが見えにくい。例えば、本校が目指す「多様な価値」とは、どんな価値観か、教職員、生徒、保護者間で具体的な姿を共有することが大切である。求める姿の共有によって、生徒は成果を自覚し、教職員、保護者は成果を実感できる。目指すものを明確にする。</p> <p>重点目標3「心身の健康の増進」</p> <p>生徒の82%は、運動への興味・関心を高め、健康の保持・増進を図ることができ、90%が外部講師による授業や講演会は、自らの生き方や将来を考える機会となったと回答した。コロナの感染防止を行いつつ学校行事や体験的な活動の実施は、容易ではなかったであろう。教職員の努力が想像できる。</p> <p>この成果を次年度の教育活動の質の向上につなげるために、例えば、目標「自分の生き方や将来を考える」ために、例年通りだけではなく、取り組み方を組織として工夫し、実践、評価、改善を重ね、成果につなげることが大切である。</p> <p>2 今後の改善に向けた意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 保護者の回答「分からない」0を目指す。 学習指導要領では、生徒にこれからの社会を生き抜くうえで必要な力を家庭、地域、学校の連携・協働により育成することが求められている。そのためには、教育内容を三者が具体的に理解・共有することが大切である。作品展をリモートで閲覧できるようにしたことは、好事例となる。ホームページ、学校、学年だより等の発信物は、保護者・地域目線で見直すなどの改善が必要である。 ○ 教職員の肯定的評価「A」を増やし、教育活動による満足感、達成感を深く味わうようにする。 重点目標、及び個別の教職員評価のほとんどがA<Bである。目指す生徒像の明確な共有、教職員の取組の具体化、実施主体の組織運営などの面から組織で見直し、できるところから実践する。 <p>3 その他</p> <p>図書館改善の動きがある。図書館は、生徒が自主的・自発的な学びを促す場である。本の著者との対話も深い学びをもたらす。生徒と教師が協働した図書館づくりなど文部科学省の実践事例等を参考に日本橋中の図書館が生徒にとってなくてはならない場になることを期待する。</p> | |